

【あさぎり町】校務DX計画

1. 趣旨

あさぎり町では、GIGAスクール構想に基づき、平成31年度からICT環境の整備を進めてきた。
しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。
これらの課題を解決するため、本市町村では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとする。

2. 現状・課題

(1) 現状

本町は、校務情報化の推進に向けた取組として、校務支援システムによる校務の効率化及びグループウェアによる掲示板の活用や会議室の予約・共有機器の貸出予約等の機能を活用し、教職員の働き方改善を行ってきた。
また、先生方へメールでやり取りするよう促すことで、FAX業務を減らし、紙の削減に取り組んでいる。
ただ、課題も多く残っている。

(2) 課題

○校務支援システム

- ・従来のオンプレミス型で運用しており、校務処理の多くが職員室に限定され、働き方を狭めている。
- ・校務系ネットワークと学習系ネットワークが独立しているため、学習系データを校務支援システムに反映できず、教育ダッシュボードを活用できる環境が整っていない。
- ・校務支援システムへ名簿情報等を手入力する必要があるため、先生方の業務に負担をかけている。
- ・市町村で使用する校務支援システムが異なるため、ばらばらのシステムで稼働しており、システムの整理やクラウド化へ向けての課題が残っている。
また、異動した先生方は慣れるまでに時間を要している。

○クラウドツールの活用

- ・ワークフロー、保護者連絡システムがばらばらのシステムで稼働しており、システムの整理やクラウド化へ向けての課題が残っている。
- ・クラウドツールの活用は進んでいるが、市町村で使用するツールが異なるため、異動した先生方は慣れるまでに時間を要している。

○教育情報セキュリティポリシーの必要性

- ・クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした新たな教育情報セキュリティポリシーの策定が必要である。
- ・多様な情報が日常的に活用されていることを踏まえ、教職員への教育情報セキュリティの教育・訓練・監査を実施していく必要がある。

○FAX・押印のやり取り

- ・廃止できておらず、業務の内容によってはFAX・押印が行われていることから、FAX・押印の廃止に向けた取り組みが必要である。

これらの課題を解決していくべく、下記項目に優先度をつけて取り組み、教職員の働き方改革への一助を担いたい。

3. 校務DX計画項目

○校務支援システム

- ・近隣の市町村と情報を共有しながら、クラウド化及び統合化の検討を進める。
- ・スムーズな次世代校務支援システムへの移行に向けて校務系ネットワークと学習系ネットワークの統合に取り組み、セキュリティ及び利便性の強化を図るため、EDR(※1)、SSO(※2)、適切なアクセス権限を検討する。
- ・教育ダッシュボードを活用できる環境を整備することで、児童生徒、教職員のメンタルや学習アプリの進捗を可視化し、よりよい学校経営の実現に向けて活用する。
- ・校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃し、先生方の業務負担を軽減していく。

○クラウドツールの活用

- ・ワークフロー、保護者連絡システムがばらばらのシステムで稼働していることから、システムの整理とクラウド化を行い業務負担を軽減していく。

○教育情報セキュリティポリシーの策定

- ・クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした内容を策定し、学校や先生方へ周知徹底する。

○FAX・押印のやり取り

- ・FAXについては1年間の準備期間を経て、FAX回線を廃止し、原則メールやクラウドツール上でのやり取りに切り替える。
- ・電子決裁システムの導入検証を行い、検証期間を経て押印の廃止を行う。

上記を実現年度を踏まえ、検討していく予定である。

【注釈】

※1

「EDR」とは、「Endpoint Detection and Response」の略称であり、
エンドポイントデバイス(例：端末)上の脅威をリアルタイムで検知し、迅速に対応するためのセキュリティソリューションのこと。

※2

「SSO」とは、「Single Sign-On（シングルサインオン）」の略称であり、1組のIDとパスワードで一度認証を行うだけで、
複数の連携したシステム、クラウドサービス、アプリケーションに自動的にログインできる認証の仕組みのこと。